

# 家庭教育通信

Vol.

28

監 修:白井市家庭教育講座講師 富澤 優江<sup>ゆうこ</sup>  
発行元:白井市教育委員会(教育部生涯学習課 492-1111 内 3432)

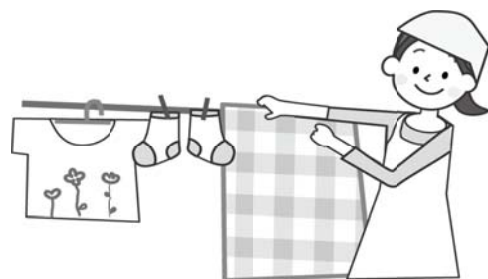
平成25年7月発行

「家庭教育通信」は、子どもたちの健やかな成長を願い、よりよい家庭教育について、皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

## 子どもとの特別でない時間の大切さ

沙也さんには、20才(短大生)、18才(高校卒業後アルバイト)、の2人の子どもがいます。夫は10年前に他界し、悲しみと不安の中2人の子どもを育てていくために仕事を始めました。仕事は、友人に紹介された保険の外交です。子どもが幼いので時間に融通がきくということを選びました。

毎朝大忙しでした。子どもたちの朝食の時間に、沙也さんは子どもと食卓に座ることはなく、子どもに「早くしなさい」と言いながらゴミ出しや洗濯物干し、子どもを送り出し、自分も身じたくをしておにぎりを作りました。沙也さんの昼食でもあり、学校から帰ってきた子どもたちの夕食までのおやつにもなりました。しかし、学年が進むにつれて部活や通学時間の違いで、3人の朝食はバラバラになっていきました。



小学校の下校後、子どもたちは洗濯物の取り込みや、お風呂そうじなどの手伝いをするようになり、長女は保育士をめざし、長男はサッカー選手に憧れていました。高学年になると夜の留守番も2人でできるようになりました。この頃、沙也さんは丁寧な仕事ぶりで、顧客や会社からの信頼を得て業績も上がってきました。仕事にも慣れ、成果も出るので仕事がだんだん面白くなってきました。顧客の要望で夜や休日にも仕事をするようになり、夕食は作って出ることもありましたが、間に合わないときは子どもたちがお弁当を買ってきて済ませていました。家族にはお父さんがいない寂しさもありましたが、沙也さんは子どもの成長をうれしく思い、仕事にやりがいを感じて生活も充実してきました。会社の先輩や上司が沙也さんに、早く帰って食事をしながら話をするように声をかけてくれても笑って大丈夫ですと言って、書類の整理をして、帰宅は午後8時を過ぎることも多くなっていきました。



サッカー少年の長男は、部活後、塾に通っていましたが、「来ていない」と塾から連絡が入ったのは中学2年生の12月でした。驚いた沙也さんは、その日、いつものように帰宅した長男を問いただすと、ゲームセンターに行っていたようです。部活はすでに秋に辞めていました。その理由は、長男はケガをおして出場した地区大会の決勝戦でミスをしたため、チームは敗れていました。責任を感じるとともに自信を無くし、誰にも相談しないで辞めたそうです。その後、長男は勉強にも身が入らず、下校後は着がえて出かけ、誰とどこに行っているかわからず、帰宅時刻は遅くなっていきました。叱ると何日も口をきかず、反抗的な態度をとるばかりでした。高校に入学後、アルバイトを始めた長男の帰宅はますます遅くなりました。沙也さんは、早めに帰宅して、夕食に長男

の好物を作って待ちましたが、「アルバイト先で済ませた」と言ってすぐに部屋に入ってしまいました。高校3年生の3学期には、貯めておいたアルバイト代で免許をとり、バイクまで購入しました。卒業を控え進路を決めるときになっても、バイクに夢中で沙也さんの心配は募るばかりでした。

沙也さんの心配が現実になったのは、4月に入ってからでした。雨の夜、スリップ事故を起こして大たい骨骨折。バイクは大破しヘルメットをかぶっていなければ、ケガでは済まなかったと医師から言われ、集中治療室で横たわる長男を見たときは、安堵とショックで涙と震えが止まらなかったそうです。

その後、沙也さんは毎日病院に通いました。話せるようになると長男は「明日は何時ごろ来る？」と沙也さんの見舞いを楽しみに待っているようでした。父親の思い出話や中学で部活を辞めたころの話などを少しずつですが話すまでに回復しました。病院食では物足りないらしく「母さんのハンバーグが食べたい」とリクエストも出て、長女も加わって3人で食事をすることができました。何年ぶりだったのでしょいか。

沙也さんは、このとき先輩の「早く帰って、ご飯を一緒に食べなさい。今が大切だよ」と言ったことばの理由が心から分かったそうです。子どもとの特別でない時間の大切さが。一緒にご飯を食べる。一緒にお風呂に入る。一緒にテレビを見る。一緒に笑う。一緒に泣く。子どもと“一緒に”何かをできる時間は、ずっとは続きません。今のこの時を大切に重ねることが、親子の信頼関係を強めていくのでしょい。親子ですから、沙也さんのようにやり直しのきくこともあります。けれど悲しいことに、修復には、親子だけでなく兄弟姉妹にも苦しく辛い時間がかかります。それでも尚、修復が難しいこともあるのです。



ご飯と家族のおしゃべりは、子どもの心と親子関係を育てます。問題が起こっていない当たり前の時間を大切にしたいものです。

## 県内の相談場所

### ・ 家庭教育の悩みや不安について

白井市教育相談室

TEL 492-2301

県子どもと親のサポートセンター

TEL 0120-415-446

(障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について)

県総合教育センター特別支援教育部

TEL 043-207-6023

### ・ 養育上の悩みや非行・虐待などについて

白井市家庭児童相談室

TEL 497-3477

中央児童相談所 (子ども家庭110番)

TEL 043-252-1152

社会福祉法人 千葉いのちの電話

TEL 043-227-3900

### ・ 子どもの非行などについて

千葉県警少年センター (ヤングテレホン) TEL 0120-783-497

### ・ 教え・育てる ウェブサイト 「親力アップいきいき子育て広場」

[http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi\\_pc/](http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi_pc/) (PCサイト)